

令和 8 年 7 月 24 日

令和 7 年度 特別の教育課程の実施状況等について

栃木県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
足利市立名草小学校	足利市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

本市全小学校において、平成 15 年度より取り組んできた英会話学習の内容と外国語活動・外国語科の内容を関連づけた独自の年間指導計画を作成し、「話すこと」「聞くこと」に特化した指導を行うことで、英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。

必要となる教育課程の基準の特例については、「教育課程特例校編成の基本方針等について」を参照。

2. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

○計画通り実施できている

・一部、計画通り実施できていない

・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

○実施している

・実施していない

(3) 自校における評価

- ・第 1 学年からの英会話学習の実施は、英語に慣れ親しむことに十分つながっていると思われる。
- ・英会話学習の実施によって、ALT の出身地や文化に興味を示すなど、外国語や外国の文化に対する興味・関心が高まっている。
- ・第 1 学年からの英会話学習の実施は、時数が少ないため、コミュニケーションの基礎的な能力の育成までは難しいと思われる。

(4) 学校関係者による評価

＜児童＞

- ・令和 7 年度の児童アンケートでは、「英会話学習の授業で楽しく勉強していますか。」という質問に対し、児童全員が「はい」と答えている。
- ・ALT と積極的に関わろうとするが、英語でのコミュニケーションは消極的な様子が見られる。

＜保護者＞

- 令和7年度の保護者アンケートでは、「英会話学習は、お子さんが英語に慣れ親しむことにつながっている。」という内容に対し、「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた保護者が、97%であった。

3. 実施の効果及び課題

- 第1学年からALTと関わり英語を耳にしているため、英語に慣れ親しむという点では、英会話学習は効果があると考えられる。
- 学年が上がるほど英語でのあいさつができる児童が増えるが、毎回決まっているあいさつの仕方であるため、少し違った質問や返答があると戸惑ってしまう児童が多い。第1学年から、多様なあいさつやリアクションのフレーズを学んでおくことが必要である。

4. 課題の改善のための取組の方向性

- ALTとの打合せの時間を計画的に設定して確保し、担任とALTとが課題を共有して授業が行えるよう努めていきたい。